

# 分岐点



## 0 1.コンセプト

「 $+$   $-$   $\times$   $\div$ 」の記号を通して、人生そのものを建築で表現した。

- 「 $+$ 」 出会い
- 「 $-$ 」 別れ
- 「 $\times$ 」 他者と自分を照らし合わせること
- 「 $\div$ 」 分かち合い、時に分かたれること

人生は選択と出会い、別れを繰り返しながら進んでいく。

建物に入ると三方向に分かれた階段が現れ、選択を重ねながら進む。

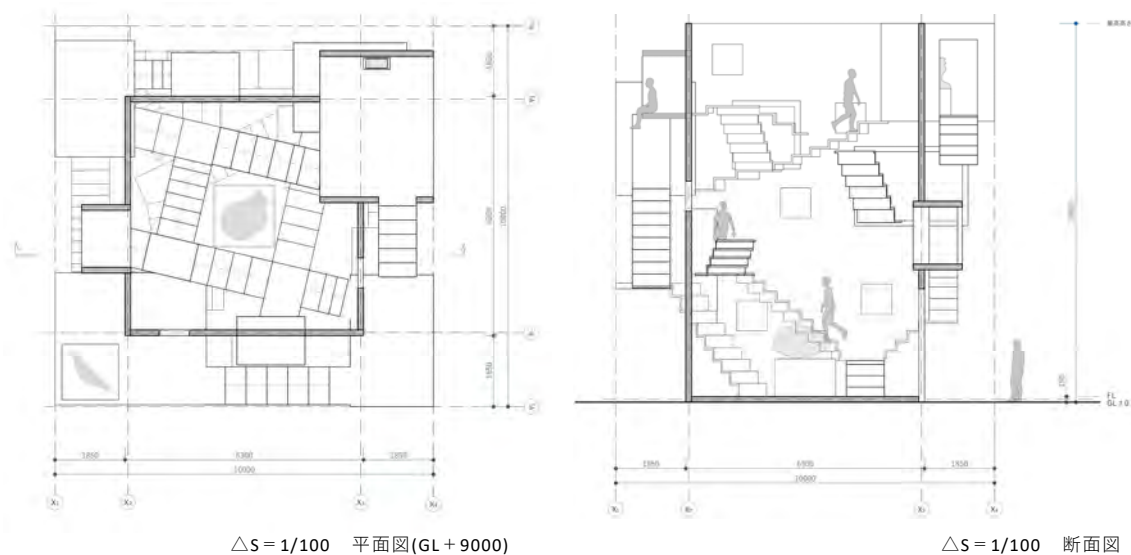
その過程で、出会いや別れを経験し、遠くの人を見つめながら自分を振り返る瞬間が生まれる。時には別々の道を進み、あるいは得た経験をあとから来た誰かと分かち合うこともある。

さらに、この建物の階段はどこから登ってもすべてを通ることができ、どの道を選んでも自分だけの道が形作られていく。

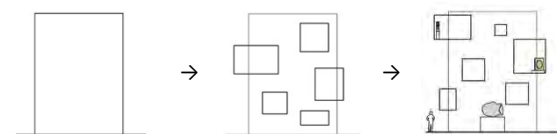
この建築は、人生の歩みそのものを体験できる空間である。



## 0 2. 図面



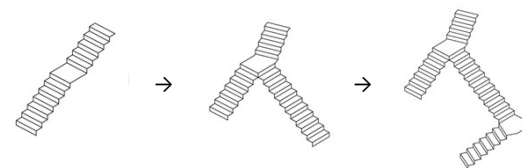
## 0 3. ダイアグラム



大きな直方体を建築の芯とする。

周囲にさまざまな四角形をランダムに配置する。

それぞれの四角形を用途に合わせて大きさや配置を変える。



まず、直線的な階段を配置する。

それを分岐させる。

さらに斜めに展開させる。

△この写真は、建物内の交差する階段を表しています。どの方向にも進める構造は、人生の選択や出会い、別れを象徴し、それぞれの異なる道を表現しています。

